

カリフォルニア州サクラメントにおける軽度知的障害者の高等教育以降の学びの支援
工藤 傑史（教育研修・事業部 総括研究員）

平成23年10月10日から10月14日、「特別支援学校（知的障害）高等部の軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究」にかかる情報収集のため、米国カリフォルニア州サクラメントを訪問しました。

カリフォルニア州では、リハビリテーション省（Department of Rehabilitation）の管轄で障害がある人たちの様々な移行支援プログラムが用意されています。現在、州が力を入れて進めているものの一つに、軽度知的障害や発達障害がある人たちがコミュニティカレッジ（公立の短期大学）で学ぶ“College to Career”プログラムがありますが、訪問したサクラメントシティカレッジにおいても同プログラムが開設され、軽度知的障害者がキャンパスライフを体験しながら、リソースセンターのアセスメントや支援のもとに自立に必要なアカデミックスキルや職業訓練、生活の自立に関わる様々なプログラムを学んでいました。

また一方で、学校卒業後に“働きながら学ぶ”プログラムも民間の支援団体で行われており、歴史があるDDSO（Development Disabilities Service Organization）では、集団活動への参加を通してライフスキルを学ぶプログラムや、陶芸やタイル画の制作、映画制作などの余暇活動や芸術活動を支援するプログラム、基本的なアカデミックスキルを学ぶプログラム、日常生活の自立に必要な食事等の生活スキルなどを学ぶプログラムなどが開設され、多くの知的障害者が参加していました。

いずれにおいても、仲間とともに生き生きと学ぶ姿は印象的で、改めて高等教育以降の学びの大切さを感じました。

DDSOのアート工房でのタイル画制作

